

「師弟勝利の歴史—未来は弟子で決まる」

1枚目／創立80周年の原点（8枚目の絵の裏に貼る）

日蓮大聖人のご遺命である世界広宣流布。その実現のための創価学会の歩みは、初代、二代会長の師弟の共戦から始まりました。教育者であった牧口先生の『創価教育学体系』を世に出すことは、弟子・戸田先生の誓願でした。当時、編集も出版作業も思うように進まず、苦悩されていた牧口先生に、若き戸田先生が進言しました。「私が、やりましょう！ 師匠のことは、私が一番存じております。すべて、お任せください」と。

あらゆる困難を乗り越え、1930（昭和5）年11月18日、『創価教育学体系』が発刊。この日が創価学会の創立記念日となっています。弟子が師の構想を実現しゆく師弟不二の闘争は、この時から脈々と受け継がれてきました。

2枚目／受け継がれる意志（1枚目の絵の裏に貼る）

当時、日本は軍国主義により思想・宗教の統制を強めていました。迫害を恐れず大聖人の仏法を貫いた牧口先生と戸田先生は投獄され、牧口先生は東京拘置所で広布に捧げた尊き生涯を終えられました。生きて牢を出た戸田先生は牧口先生の意志を継ぎ、学会の再建と広宣流布の実現を目指して一人立ちあがりました。戸田先生は師と共に受けた法難を誉れとし「あなたの慈悲の廣大無辺は、私を牢獄まで連れて行ってくださいました」と、後に語られています。

そしてそのような中、戸田先生を守り抜き“師弟不二の闘争”を命がけで戦ったのが、後の第三代会長となる池田先生でした。

3枚目／師匠のすべてを担って（2枚目の絵の裏に貼る）

戸田先生の事業が戦後の混乱で苦境に陥った時、多くの人が戸田先生のもとを去っていくなか、池田先生は青春のすべてを懸けて戸田先生に仕えました。ある時、池田先生は戸田先生への決意を詠みました。

「古の奇しき縁に 仕えしを 人は変れど われは変らじ」と。

それに対し、戸田先生は万感の返歌を詠みました。

「幾度か 戦の庭に 起てる身の 捨てず持つは 君が太刀ぞよ」

「色は褪せ 力は抜けし 吾が王者 死すとも残すは 君が冠」

戸田先生は、夜学を断念した池田先生に、毎朝、学問万般の講義をし、自身の全てを授けるべく弟子を薫陶しました。この苦闘の時代に、戸田先生はある時は大学の食堂で「大作、大学を作ろう。創価大学だ」と、遠大な教育構想や聖教新聞の発刊構想などを語られました。

4 枚目／師弟不二の 闘争 (3 枚目の絵の裏に貼る)

1951 (昭和26) 年 5 月 3 日、戸田先生の創価学会第二代会長就任式が行われました。その席上、戸田先生は「75万世帯の達成」という目標を掲げられました。池田先生は、戸田先生の思いに応えようと一人立ちあがり、日本の各地に広布拡大の金字塔を打ち立てていきます。そしてついに 1957 (昭和 32) 年 12 月に 75 万世帯が達成されました。翌 1958 (昭和 33) 年 3 月 16 日、戸田先生は青年、なかんずく池田先生へと「広布のバトン」を手渡す式典を行いました。また、戸田先生は池田先生に「大作、世界が相手だ。君のほんとうの舞台は世界だよ」と言われ、最後まで全力で弟子を薫陶されました。1958 (昭和 33) 年 4 月 2 日、全ての願業を達成された戸田先生が逝去されました。

5 枚目／池田会長の就任、世界広布へ (4 枚目の絵の裏に貼る)

戸田先生なき学会に対し、世間が「学会は空中分解する」等と騒ぎ立てるなか、池田先生は創価学会を団結の方向へ、前進の方向へと指揮を執りました。そして 1960 (昭和35) 年 5 月 3 日、池田先生が第三代会長に就任されたのです。

池田先生は戸田先生のお写真を内ポケットに携えて、同年 10 月 2 日、ハワイに世界広布の第一歩を記されました。池田先生の激励によって創価の連帯は世界各地に広がり、1975 (昭和 50) 年 1 月 26 日には、世界 51 か国・地域のメンバーがグアム島に集い、創価学会インタナショナル (SGI) が発足。SGI は現在 192 か国・地域に発展しています。

6 枚目／反転攻勢 (5 枚目の絵の裏に貼る)

大発展する創価学会に対し、嫉妬した宗門と反逆の退転者たちは、ありとあらゆる形で学会と池田先生を攻撃しました。1979 (昭和54) 年 4 月 24 日、池田先生は会長を辞任、名誉会長に。5 月 3 日、池田先生は私たち学会員に揮毫を残されました。「大山 (大きい山) — 「嵐に不動の信心たれ」、 「大桜」 (大きい桜) — 「功德満開の人生たれ」、また、「共戦」 — 「生涯にわたりわれ広布を不動の心にて決意あり 真実の同志あるを信じつつ」と。さらに 5 月 5 日には、「正義」 — 「われ一人正義の旗持つ也」との揮毫を認められました。「もう一度、本当の学会をつくり、未来に残すのだ」との思いで、吹き荒れる嵐の渦中でも、池田先生はただ一人厳然と立ち、会員を第一に考え、全力で激励されてきました。

7枚目／師匠の構想を実現（6枚目の絵の裏に貼る）

池田先生の反転攻勢の戦いによって、創価学会は全ての陰謀に打ち勝ち、さらなる発展を遂げました。池田先生は民族や宗教の違いを超えて世界の識者と対談し、友情を結び平和の橋をかけてこられました。また、創価大学、創価学園などの教育機関、民主音楽協会、東京富士美術館などの文化団体、戸田記念国際平和研究所などの平和研究団体を設立され、平和・文化・教育の推進に貢献してきました。池田先生は、師弟の誓いを片時も忘れず、戸田先生の御構想をすべて実現し、発展させたのです。

8枚目／師弟一体の勝利を（7枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は、師弟の精神について法華経化城喻品の一節である「在在諸仏土常与師俱生」を通して、次のように綴っています。

「毎朝、私は胸中の先生にご挨拶し、『きょうも一日、弟子は戦います！勝ちます！』とお誓い申し上げて出発する。不二の一念で、全国、全世界の広布の指揮を執り、夜には一日の勇戦の結果を先生にご報告申し上げる。その連戦が私の毎日であります」と。

（池田名誉会長講義『御書と師弟』より）

創価学会の歴史は、師の悲願の実現を誓った弟子が進んで戦いを起こし、師匠に勝利を捧げてきたものでした。未来は弟子で決まります。私たちも、一人一人が、師弟の精神を根本に、池田門下として勝利していきましょう。

決意など